

➤ 125 力所の事業所から陽性確認の報告がありました。

職員、利用者に陽性が確認された場合、当課に報告を頂いています。(報告状況は下記)
陽性者が5人以上になるとクラスターと認定されますが、第6波でのクラスターは10件です。
つまり、9割以上の事業所が感染の広がりを防ぐことができていると言えます。

【報告のあった事業所の類型】

入所系	60
通所系	38
訪問系	10
居宅系	10
その他	7
計	125

【報告のあった陽性者内訳】

職員	109
利用者	74
その他	3
計	186

※数字は2月末までの報告分



➤ 報告頂いた事業所に感染対策について聞きました。

クラスターにならなかった事業所に、日頃の感染対策について聞きました。
回答頂いた34事業所の取組をお知らせします。感染拡大防止対策の取組の参考にしてください。

感染対策の取組の実施状況 (%は実践していた事業所の割合)

家族や友達等が陽性、濃厚接触者となった場合、事業所と対応を相談するようにしている	100%
軽い症状であっても、体調が悪い時は事務所に連絡し休みを取るようにしている	74%
更衣室等でも、職員が交流する場ではマスクを外して話さないように徹底している	94%
飲食の場合では黙食を徹底している、飲食の時に向かい合わせに座らないようにしている	74%
利用者、職員の動線上に消毒液を配置する等、手指消毒の環境整備している	85%
入浴介助の時も職員は、マスクやフェイスシールドを着用している	79%
利用者が常時マスクを着用することが難しい場合、場面や時間を選んで着用をお願いしている	74%
定期的に窓を開けて換気している	97%
2方向で換気している	91%

回答頂いた事業所の4割は、家族からの感染でした。保育園や学校での感染報告が続いており、誰もが家庭内感染する可能性があります。家庭内の状況も含めた、連絡相談体制を整えておくことが重要です。

回答頂いた事業所の8割が、職員の濃厚接触者を0~1人に留めることができていました。職員同士がマスクなしで交流しないことが、感染拡大防止、ひいては職員体制を守ることにつながります。

回答頂いた事業所の8割が、入浴時もマスクやフェイスシールドを着用していました。マスクなしでの介護は避けましょう。入浴介助時も着用しましょう。

回答頂いた事業所のほとんどが換気を行っていました。換気を徹底しましょう。

➤ 回答頂いた事業所から寄せられた感想や意見

日頃の対策が役に立った！！

- ・入浴時にマスクをしていたことがとても良かったと思う。
- ・日頃からチェックリストの確認を行うようにしていた。
- ・市内の感染状況を確認し、なるべく感染者が少ない時に訪問するようにしている。
- ・日頃からマスクの着用実施、手洗いの実施をしていた。
- ・新型コロナウイルス対策として事前に、PPE 着脱訓練やシミュレーションの実施していた。更には保健所立ち会いによるシミュレーションを実施したことで、現場の不安や疑問についてある程度確認でき、職員で共有できていたことで、発生当初も職員の大きな混乱もなく対応に移ることができた。
- ・利用者様だけでなく、職員家族の状況も常に把握し、体調が悪いだけでなく、勤務先や学校での感染などの話があれば様子を確認し、用心して休ませていた。

経験を踏まえて対応を見直した

- ・入浴介助時は感染リスクの高い場面が多かったことを踏まえ、この事案後、以下の対応とした。①入浴介助の訪問は感染リスクが極めて高いという事実を共有②入浴中、職員はしっかりとマスクをする。③利用者様にも入浴以外の時間はできるだけマスクを着用してもらう。④室温に配慮しながら、換気を徹底する。空気が通る程度、窓を少し開ける。⑤職員はマスクの着用に加え、フェイスシールド及び使い捨てエプロンを使用する。

初動対応が功を奏した！！

- ・陽性者が発生した日から、利用者の方々は居室で過ごして頂くようにして行動制限をかけさせてもらった。
- ・検査結果がはっきり出るまでは、接触者、部署フロアを接触予防策のゾーニング対応とした。

経験者として伝えたいこと

- ・陽性者発生時は保健所の指示に従い状況報告やリストの作成が急がれるため、スタッフのチームワークが必要になる。
- ・濃厚接触者の定義をきちんと理解し、マスク着用や密にならない工夫が大切だと思う
- ・陽性が確認されるまで、PCR 検査を受けられるまでの経緯が不明であった為、感染状況等を踏まえ、改めて対策の必要性を感じた
- ・どれだけ気を付けていても、100%ウイルスを防ぐことは難しいと実感した。予防も大事であるがそれ以上に感染をいかに拡大させないかに力を注ぐべきだと思う。常に人員不足の介護現場で陽性が確認されると本当に死活問題である。苦しい時こそ協力しあえるチーム作り、組織づくりを今後も心がけていきたい。(職員は本当によくやってくれたので)
- ・家族さんの情報まで入りにくく、状況把握ができないまま濃厚接触者・感染者になる可能性が十分にあると感じた。マスク着用の必須、こまめな手洗い・うがい・手指消毒、各接触か所のこまめなアルコール消毒の徹底で、感染を防ぐしかないと感じている。(自分の身は自分で守る)
- ・ゾーニング対応は実質1日だったが、運用面では細部で修正の必要な部分が多くあった。又、手袋やガウン、N95 マスク、フェイスシールド等消耗品が想定以上に動いた印象である。(グリーンゾーン対応職員まで着た。この心理バイアスのコントロールが難しかった。)
- ・利用者と同車両、同テーブル、入浴時に関わった職員等を時系列にできるだけ把握することで、制限の範囲などを検討できる。(写真やテーブル番号等を記録しておくとも後で確認しやすい)
- ・毎週月・木曜日に抗原検査キットにて検査を実施しているが、それでも検査翌日以降に発症するケースがあり、感染していることを前提とした対策が不可欠である。
- ・感染予防対策を行い、サービス提供をすることで利用者には感染させない、また利用者から感染を受けないことを経験した。